

事業名 新潟海岸（西海岸地区）

海岸整備事業

「ふるさと海岸整備事業」として、突堤、潜堤及び養浜を組み合わせた面的防護工法により、海岸周辺地域の街づくりと一体となった機能を持つ海岸保全施設として利用者等の評価の高い事業

受賞機関 国土交通省北陸地方整備局
新潟港湾空港工事事務所

事業実施期間 昭和61年4月～平成12年7月

事業費 41,000百万円

事業等の特徴

新潟西海岸の侵食防止対策としては離岸堤と護岸を組み合わせた線的防護方式で整備を進めてきたが、抜本的な侵食防止対策とならなかったため、新たに潜堤、突堤、養浜を組み合わせた面的防護方式により再整備を図ったものである。整備にあたり、地域住民の利用という観点も重要と考え、2基の突堤を夕日を見る海浜の散策及び魚釣り等の利用のために地域住民に開放している。また、毎年夏に「にいがた夢海岸フェスティバル」（新潟市が主催）が開催され、ヨットの試乗会、ビーチバレー大会、消波ブロックにペンキで絵を描く「ブロックアート」など、快適な親水施設としている。

事業の概要と利用者等の評価

新潟西海岸は、信濃川からの流出土砂により長い年月をかけて形成された堆積海岸であったが、河川改修工事や河口突堤工事等による信濃川からの流出土砂の減少に伴い徐々に海岸汀線が後退し、最大350mの海浜砂丘が消滅した。

昭和に入って、背後の市街地を守るため侵食対策事業が本格的に行われた。当初、離岸堤や護岸、堤防等による線的防護工法により行われてきたが、冬期波浪による被災や洗掘等で補修や改良が繰り返されてきた。このため、維持費の軽減及び安定性を保つ新たな海岸侵食対策工法が検討され、面的防護



上空より

工法を採用することとした。この工法は、約500m沖合に築造した離岸堤（潜堤）により波浪を減衰させ、海岸から直角に伸びた突堤で海底の砂の流出を防ぎ、養浜（護岸）による人工海浜で波のエネルギーを吸収させることで侵食を防ぐもので、海面上から波浪ブロックがなくなるため、飛沫による煙害を防ぐとともに陸域からの景観、展望がよくなる利点がある。

本事業では、昭和61年に離岸堤（潜堤）突堤×4基、養浜4区画で計画を策定、61年度から直轄事業化され、63年度に現地着工以来、平成元年には「ふるさと海岸整備事業」に指定され、整備中である。

平成12年度までに、潜堤（離岸堤）第1及び第2突堤を概成し、第1区画に養浜を投入している。

本事業は、平成元年ふるさと海岸整備事業に指定され、新潟県、新潟市、（旧）第一港湾建設局で新潟西海岸利用計画調査検討委員会を設置、「新潟夢海岸」とネーミングし背後の西海岸公園やサイクリングロード等と連携し、市民の憩いとふれあいの場として、高質な親水空間を創出することとした。

地域住民の本事業への関心の高さと地域住民への影響を考慮するとともに、事業の円滑な推進と、親しまれ、安心して利用してもらえるよう、以下の取り組みを行い事業を進めてきた。

相談窓口の設置（平成元年～）

地元説明会の開催（平成6年～）

イベント等への参加と協力（平成7年～）

新潟湾ふるさと海岸整備事業協議会の設立

審査委員会委員の意見等

- ・「日本海の夕日」で名高い新潟海岸を市民に親しまれるように復活させた点はよい。
- ・鳥取砂丘と並び称され、新潟の象徴であった新潟海岸は、侵食により气象台が水没するなど350m以上もの汀線が後退しているが、その海岸を海岸整備事業で見事に蘇らせたことは画期的であり、新潟市民の長年の念願が達成されたことについては大いに称賛される。



にいがた夢海岸フェスティバル